

平成27年度全国学力・学習状況調査結果概要

女川町立女川小学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善への取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成27年4月21日(火)

3 対象学年 女川小学校6年生(在籍51名 欠席者0)

4 調査事項および内容 教科に関する調査から 国語 算数 理科
生活習慣や学習環境に関する質問紙調査から 児童に対する調査

5 教科に関する調査の概況

(1) 全国平均正答率との比較 A:「知識」に関する問題 B:「活用」に関する問題

| 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 理科 |
|------------|---------------|---------------|---------------|------------|
| 正答率で下回っている | 正答率で大きく下回っている | 正答率で大きく下回っている | 正答率で大きく下回っている | 正答率で下回っている |

A:「知識」に関する問題 B:「活用」に関する問題

6 学力調査から

(1) 国語の課題と指導改善のポイント

ア 文の構成について理解すること。

→文の中における主語を捉えることや、主語と述語の照応関係を捉えられない児童が半数以上いる。例文の中から主語と述語を区別して取り出し、区別したことが視覚的に捉えやすいカードやワークシートを活用したり、グループやペアで理由を添えて説明し合う場を設けたりして理解を深めていく。また、主語と述語との関係に注意して分かりやすい文で書いたり話したりすることを日常的に意識させていく。(A問題)

イ 話の内容に対する聞き方を工夫すること。

→話し手の意図を捉えながら聞き、考えたことを整理できない児童が3/4以上いる。話を聞くときは、相手が伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど、話の目的や意図を捉えながら聞き取るように意識させる。内容を整理して聞くためにメモを取ったり活用したりする。その際、メモは短くまとめ、図などを効果的に用いて整理するようにする。また、各教科の学習や日常生活においても、このような聞き方の工夫を意識するように促す。(A問題)

ウ 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと。

→新聞記事を書く問題で、条件に合わせ、指定された字数の範囲で書くことができない児童が多数いた。自分で調べて書く時や、取材してメモを取る時は、聞いた内容や分かったこと(事実)だけを書くのではなく、自分が感じたことや考えたこと(感想や意見)もメモを取るようにする。書く際は、事実と感想を関係付けて書く、引用して書く、適切な分量にまとめて書くなどの条件に合うように書く機会を多く設ける。(B問題)

エ 目的に応じ、中心となる語や文を捉えること。

→文章の中から難しい言葉とその意味について書かれている内容を捉えられない児童が半数程度いる。説明的文章では、中心となる語は文章の中で繰り返し使われたり、それが難しい言葉である場合はその意味を定義付けている文があったりすることを捉えさせる。その上で、中心となる語に着目して文全体の意味や文章の内容、筆者の考えを読み取る活動や読書活動を増やす。(B問題)

(2) 算数の課題と指導改善のポイント

ア 単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すこと。

→0.5は0.1が5個集まった数、2.3は0.1が23個集まった数とみるなど、基準となる数を基に小数を相対的に捉える活動を反復し、位を揃えて小数を整数に置き換えて考えることに発展させていく。小数の計算は、整数と同じ原理、手順でできることを確認し、反復し定着させていく。(A問題)

イ 除数が整数である場合の分数の計算をすること。

→被除数を大きさの等しい分数に直したり、被除数と除数に同じ数をかけて整数同士の除法に直したりすることで、分母に除数をかけていることを確認する。計算の仕方を工夫して考え出し、簡単に速く正確に計算できる方法を見出すまでの過程を丁寧に扱うようにする。分母に除数をかける計算の仕方を反復し定着を図る。(A問題)

ウ 円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めること。

→円の半径の長さがどれも同じ長さになる、二等辺三角形の底角の大きさは等しい、三角形の内角の和は180度であることを理解し、図から見出して使えないと正答できない。図形の性質に基づいて、なぜそうなるかという根拠を説明する機会を多く設定し、理解を深める。また、複数の図形の性質を用いて解く問題を発展・補完的に取り組ませる。(A問題)

エ 示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを言葉や数を用いて記述できること。

→日常生活の事象の解決に、割合や単位量当たりの大きさを活用することで、よさや働きに関心をもたせる。割合の学習では、基準量、比較量、割合の関係を数直線で表わす等、数量の関係を表現する活動を多く取り入れる。また、算数の学習に限らず、間違いを振り返り、原因や理由を明らかにするとともに、的確に表現し直す活動を取り入れていく。(B問題)

オ 正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が30度になる理由を言葉と数、記号を用いて記述できること。

→図形の性質を基に観察したり構成したりすることや、説明することを大切にする。既習事項の図形の性質を整理し、説明するためにはどれを用いればよいかを話し合う活動を取り入れたり、未完成の説明を提示して何が不足しているかを考えてよりよい表現に直したりする。(B問題)

(3) 理科の課題と指導改善のポイント

ア 熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述できること。

→実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述する機会を多くする。考察する時間を十分確保し、そこから考えたことを基にして結論を導き出すようにする。

イ 電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できること。

→観察、実験及びものづくりにおいて、予想通りの結果が得られなかったり、計画通りにものづくりができなかったりする際に、予想や仮説を見直したり、方法を改善したりして、科学的な見方や考え方をより確かなものにする。電磁石であれば、導線の長さや乾電池のつなぎ方や向きなどを見直したりして、電磁石の強さを調整する。

ウ メダカの雄雌を見分ける方法を理解すること。

→メダカを自分で育てたい、メダカはどうやって飼うとよいだろうといった興味・関心をもたせる。メダカの卵が産まれるようにしたいという目的意識をもち、雄雌を見分けることの必要感から調べる活動をする。魚のひれの名称や形状の違いを単に資料だけで記憶するのではなく、雄雌の違いについて意欲的に観察できるようにする。

6 生活習慣や学習環境に関する調査の概況

- 就寝や起床の時刻がやや不規則であり、普段（月～金曜日）の1日当たりのテレビやビデオ・DVD、テレビゲームの時間が、4時間以上の児童が全国に比べて多い。
- 家庭学習の時間は、1時間以上している児童は、全体の5割弱で、平日、休日ともに全国より少ない。家で宿題はしているが、自分で計画を立てて勉強している児童は半数程度で、全国より少ない。また、読書はあまり好まず、1日当たりの読書時間も少ない。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表する活動に苦手意識をもっている児童が多いことが分かった。話し合い活動などを通し、自分の考えを深めたり広げたりする活動を取り入れていきたい。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」という質問に対して全国に比べ、肯定的な意見が少なかった。
- 教科の学習では、特に算数に苦手意識を持っている児童が多く、全国に比べて意欲や根気が低く、学ぶ姿勢も消極的な傾向にある。

7 今後の取組

- ねらいを明確にし、自分の考えを書く、話す、聞く、メモを取る、説明するなどの言語活動を適切に取り入れた授業を展開する。言語活動が機能するよう、コミュニケーション力や協働する力を身に付けさせ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- 授業の終末には適用問題を解かせ、理解が不十分な児童には放課後スキルタイムで補充的な学習を行う。
- 小テストや既習事項の復習の時間を意図的に設定したり、授業時間以外にもスキルタイムを活用して反復練習したりし、基本的な知識や技能を確実に身に付けさせる。
- 女川向学館や学生ボランティア、子ども応援団と連携し、T・T（チーム・ティーチング）指導の体制を組み、下位児童の基礎・基本の定着と上位児童の発展的課題へ対応するなど、個への指導をきめ細かく行う。
- 学習の約束ごと（女川スタンダード）の定着、宿題の提出の徹底、スキルタイムへの課題意識をもつての取組など、学習に関する基本的な事柄を徹底的・継続的に指導し身に付けさせる。
- 全国学力・学習状況調査の問題を教材として授業やスキルタイムで活用する。
- 自己肯定感や思いやりの心、達成感を高めるために、教育活動全体を通して志教育の視点から活動に取り組ませる。
- 「はやね はやおき 朝ごはん」を中核とした家庭への啓発を継続し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- 宿題は必ずすることを徹底するとともに、その他に予習・復習などを指導、声掛けして家庭学習の質的・量的な充実を図る。また、読書や家読を推奨し、家庭学習と併せて更に家庭との連携を図る。